

## 佳作

### 私のエネルギー

山形県山形市立第二中学校

3年 佐藤 悠樹

受験生である私が、今エネルギーを持って取り組んでいることは勉強、ではなく自転車だ。今乗っている自転車は、小学5年生の誕生日に買ってもらったマウンテンバイクである。小学生のときにはまだ大きかったその自転車で、父と山寺やリナワールド、西川町まで行った。中学生になると、父がついてこれられなくなり、ふらっと一人で蔵王ダムや上山城、山形市少年自然の家にも出かけるようになった。母に車で付き添ってもらいながら米沢や仙台にも行った。

自転車を好きになったきっかけは特に覚えていないが、自転車に乗って一人で走っていると開放感や達成感が得られる。知らない場所に行って、特に行き先も決めずにまったく知らない道を走るのはわくわくするし、長い道のりを走って目的地に着いたときにはうれしい気持ちになる。だから、私にとって自転車に乗っているときに、一番自由を感じられる時間だ。

そして、私が特に好きなのは坂道だ。坂はもちろん大変ではあるが、一番上まで登ったときに見える景色は、車で行ったときに見る景色と比べて、何倍もきれいに感じる。そんなとき、心が満たされていくような感じがして、幸せな気持ちになることができる。今まで行った場所の中でも特に印象に残っているのは蔵王ダムだ。家からの距離は17キロメートルほどしかないのだが、ダムまではかなりきつくて長い坂道が続く。私が蔵王ダムに行ったのは一昨年の秋ごろだったのだが、一番上のダムに着いたときに見えた紅葉と空が、とてもきれいで感動したことを今でも覚えている。その後は、熊の出没情報の急増もあって、親に止められてしまい、なかなか行けずにいるが、ぜひまたヒルクライムにはトライしてみたい。練習を重ねたのちには、「蔵王坊平ヒルクライムinやまがた」などの公式大会にも参加してみたいと思っている。

また、私がより自転車を好きになった理由は他にもある。自転車を購入したお店の方に頼んで、自転車のパンクの修理の仕方を教えてもらったこともあった。もともとそういう機械の仕組みに興味があったこともあり、すぐに夢中になった。丁寧に教えていただいたおかげもあってすぐにできるようになり、車に自転車を乗せるときなどに、車輪をつけたり外したりする動作も、スムーズにできるようになった。

このようにして自転車は、精神的にも体力的にも、また社会性の面でも私の世界を大きく広げてくれた。

さらに私は自転車に対して、未来につながる大きな可能性を感じている。例えば、地球温暖化が進んでいる今、車などから排出される二酸化炭素の削減には、自転車の使用はとても効果的な方法である。さらに、健康づくりの面でも大いに役立つ。これは、健康寿命が延びて医療費の削減にもつながるなど、さまざまなメリットが考えられる。このように、社会全体での自転車の利用を促進するためには、自転車を利用しやすい環境を整えることが必須である。そのために建設される広くて平らな道路は地域の住民などすべての人にとって使いやすいはずだ。そのような道路を整えることは、住みやすく、また観光等でも訪れやすい町につながり、その地域全体の活性化にもつながるのではないだろうか。自転車は私個人にとってのエネルギーだけではなく、社会をよりよくするエネルギーにもなり得ると気づいた。

将来的に私はどんな形で自転車に関わるかはわからないが、仕事や趣味など何らかの形では関わっていきたいと思う。

この作文を書くことを通して、私にとって自転車というものは、自分の心のゆとりになったり、自分への自信や人との関わりを与えてくれたりするエネルギーであると改めて気付くことができた。そして、自転車が将来につながるかもしれないとも分かり、驚くと同時に少しうれしい気持ちにもなった。私を成長させてくれる自転車と、自分のエネルギーを信じて頑張りたい。